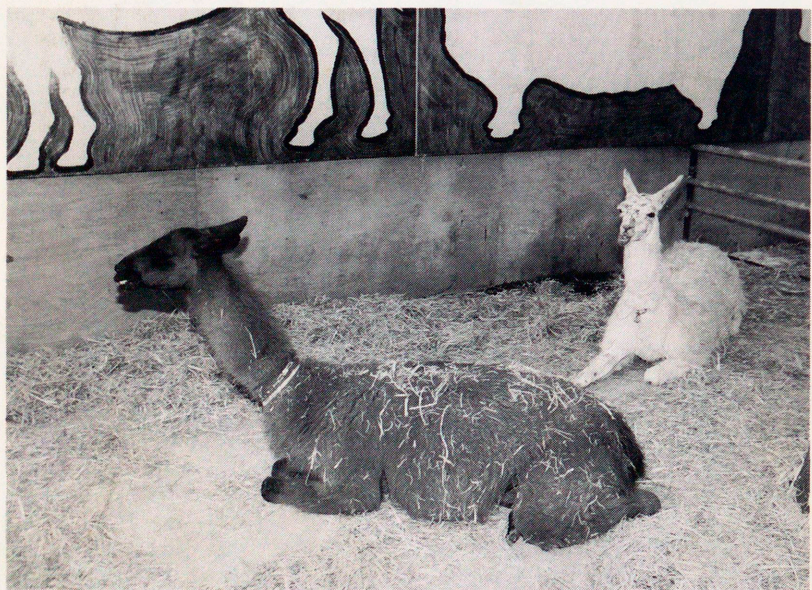


# ふじみの



No. 35

東京農大畜友会



## 巻頭言

畜産学科長 天野 卓

卒業を迎えられた諸君、おめでとうございます。本日をもって畜産学科での学生生活は最後となります。喜びと満足感を大いに感じておられることと思いますが、卒業証書を手にされ今一度入学から本日までの学生生活を振り返り、厳しい社会情勢の中諸君達を懸命に支えられたご両親に対し、感謝の気持ちを決して忘れる事のないようお願いするしだいでもあります。明日からは社会人として新たな人生を始められる諸君に対し心から声援を送ります。畜産学科で学んだ学問、大学生活で得た友人そして数々の経験を十分に活かし、少なくとも満足感の持てる人生を送って下さい。与えられた場所に生きる意味を見つけない人はどこに行っても満足感を得られません。各人が与えられた場所でそれぞれの生きる意味を見いだし思いきり頑張ってください。



下さい。期待しています。 新入生諸君、入学おめでとうございます。農大は百余年の歴史を基礎に大改革を行い、昨年の四月から農学部だけであった学部を五学部と致しました。畜産学科はこれに伴い、新農学部として厚木新キャンパスにおいて新たな出版を致しました。現在は一年生と二年生だけのキャンパスですが、今年の六月には研究棟が完成し、研究室や研究・教育に関連する種々の施設も整備・拡充されます。そして平成十一年度中に世田谷キャンパスからの全ての移転を完了する予定です。農学部は農大の中で最も伝統のある学部、言い換えれば五学部の中では本家ともいえるべき学部です。諸君達はその農学部の畜産学科に入学されたわけです。初心忘ること無く、有意義な学生生活をスタートさせて下さい。

畜友会は、昨年新会則を制定し、それに基づく新体制を発足させました。平成十一年度までは畜友会員が世田谷と厚木の二キャンパスにまたがることになりましたが、委員長を始めとする畜友会役員諸君、そして上級生諸君は畜友会が持つ約四十年の歴史の火を消すことのないよう、厚木キャンパスの新会員にもしっかりと伝統を引き継いでくれることを強く念じております。

## ふじみの発刊にあたり

畜産学科三年 千 葉 耕太郎

菜の花の香り漂い、桜の芽もほころぶ今日この頃、今年も「ふじみの」第三十五号を発刊する事になりました。

さて、本誌は畜産学科の先生方、学生達の原稿を記載すると共に、昨年一年間の事業報告等を記載しています。一人一人が、一生懸命書いた文章ばかりなので、みなさん最初から最後までしっかりと読んで下さい。



ふじみの  
目次

巻頭言

天野 卓 1

畜産物利用学研究室

ふじみの発刊にあたり

三年 千葉 耕太郎 3

家畜生理学研究室

家畜飼養学研究室

家畜繁殖学研究室

家畜学研究室

野生動物学研究室

13 16 19 23 26 27

同窓会だより

同窓会長あいさつ

伊藤 澄磨 6

畜産振興会

東京農業大学畜産振興会の紹介

渡邊 誠喜 7

集う学友

。收穫祭禁断症状

二年 池田 貴司 30

。厚キャンから腹一杯の愛をこめて♡

一年 鈴木 明子 31

研究室だより

畜産衛生学研究室

8

家畜育種学研究室

11

畜友会だより

平成十年度畜友会事業報告

33

。平成十年度畜友会決算報告

34

。東京農業大学農友会第一〇七回收穫祭  
畜産学科統一本部収支報告

35

創立一〇七年收穫祭結果報告

36

第二十八回学内スポーツ大会結果報告

37

平成十一年度畜友会役員

38

平成十一年度畜友会事業計画(案)

39

東京農業大学農学部畜産学科「畜友会」会則

40

各部門委員長より

。何かでっかいことをやってやろう

統一本部委員長 千葉 耕太郎 44

。前夜祭・特別企画を終えて

特別企画委員長 小森 美和 44

。宣伝隊を初めて経験して

宣伝隊隊長 村上 真紀子 46

。体育祭を終えて

体育祭委員長 浜田 和仁 46

。北門装飾やりました

北門装飾委員長 三好 順子 47

。家畜苑を終えて

家畜苑委員会 吉田 秀一 47

編集後記

編集委員長代表 吉田 秀一 48



## 同窓会だより

# 同窓会長あいさつ

畜産学科同窓会

会長 伊藤 澄磨

畜産学科は、昭和二十八年に第一回の卒業生三十七名が世に出て以来、今日までに第四十六回（平成九年）の卒業式が行われ、延べ五千七百六四名の同窓生が、国の内外を問わず、畜産業界ならびに関連産業界においてそれぞれ活躍されております。

我々の畜産学科は、昭和二十四年に千葉県茂原において千葉農学部畜産学科として設置され、昭和三十六年に茂原から世田谷に移転し、丁度四十周年に当たる昭和六十三年に「東京農業大学畜産学科同窓会」が発足して今日に至っております。

本会は、会員相互の親睦をはかり、併せて畜産学科の発展に寄与することを目的として設立され、会員の皆様のご協力により着々とその事業を展開し、十一年目を迎えるようになっております。

この間に

- 一、畜産学科（畜友会）への援助
  - 二、新入会員および卒業祝賀会への援助
  - 三、会員名簿の追補発行
  - 四、同窓会報の発行
  - 五、総会および親睦会の開催
  - 六、役員および常任幹事会の開催
- 等の諸行事を行っております。

特に本年度は厚木キャンパスに新一年生を迎えるに当たり、各種イベントなどへの助成を中心に行いました。卒業生の諸氏は、本日より同窓会の会員となりました。であります。どうか、ここ東京農業大学畜産学科で学び成長されたことを生涯の絆として各界でご活躍されることをお祈りいたします。

また、準会員ともいふべき在学生諸君は、畜産学科を母として、友となる「同窓会」を活用し、その恩恵を受けていただき幅広い人格を形成され勉強（研究）ならびに課外活動に全力に投球して悔いのない学生生活を送って下さい。

## 畜産振興会

# 東京農業大学畜産振興会の紹介

東京農業大学畜産振興会

会長 渡邊 誠喜

畜友会の機関誌「ふじみの」の紙上を借りて東京農業大学畜産振興会について紹介させて頂きます。

この畜産振興会は平成三年三月二十三日に設置され、その事務所は畜産学科内に置かれています。

本会の設立の目的および事業はその規約に東京農業大学農学部畜産学科および同大学院農学研究科畜産学専攻に所属する学生の教育・学術研究の向上に資することを目的とし、本会の事業としては、

- (1) 学生への奨学金の貸与・補助
- (2) 学生の海外研修に対する補助・助成
- (3) 優秀卒業論文の表彰
- (4) その他目的を達成するために必要な事業となつて居ります。本会は役員として理事・監事が選任され、理事会を組織し、必要事項が審議・決定され、運

営されています。また、役員以外に評議員による評議員会が組織され、会の運営に遺漏のないよう配慮されています。

本会の資産は

- (1) 東京農業大学畜産学科同窓会からの寄付金 賛助会員会費
- (2) 一搬寄付金
- (3) その他の収入
- (4) その他の収入

となつて居ります。本会設立の発端は畜産学科同窓会からの寄付金並びに（故）江渡宗徳君（平成二年十二月、当時畜産学科二年次生）のご遺族からのご寄付によるものであります。その後、何件かの寄付が寄せられ、本会の原資となっております。

これまでの事業としては平成三年度以降毎年農学部畜産学科の優秀卒業論文を一件ずつ表彰すると共に、学業成績優秀な学生に対して表彰しております。また、平成六年度以降には大学院生の海外研修や学会発表、学術論文の発表に対しても助成するなど、逐次事業も拡大して居ります。それにしても、資産を増加させることが事業の拡大に直接係るところでありますので、役員一同努力致している処であります。卒業生には本会設立趣旨を理解され、本会の育成のためご支援賜り度く、お願い申し上げます。また、在校生にあつては、本会の目的に叶う事柄が生じた場合には、本会を活用され、充実した学生生活を送られますよう祈つて止みません。



研究室だより

家畜衛生学研究室

本研究室は室長の近江助教をはじめ、渡邊助教、鹿江嘱託教授、東量三客員教授の御指導のもと大学院生二名、四年生三十二名、三年生二十四名で構成されており、他の研究室から離れた東門近くで研究活動を行っています。

室員は各自で希望する家畜、家禽別に牛班、豚班、鶏班、実験動物班の四班に分かれ各家畜、家禽の疾病に対する予防法及び環境衛生などの研究を行っています。

家畜衛生とは「家畜・家禽の生命を脅かす種々の健康阻害因子を除去及び予防し、生命の延長をはかり、かつ生産性の向上を目的とする」が、元来の家畜衛生であったが、最近では「動物の福祉」という観点からの家畜衛生、及び伴侶動物(ペット)の衛生管理法など家畜、家禽にとらわれない家畜衛生が加わってきています。また、本学家畜診療所においても一般外来動物の診療を中心に各種の研究活動が行われています。

その他の活動は、年間行事として新入生歓迎会、収穫祭では模擬店で「しし汁」を出店し、第一〇七回では優良店に選ばれました。その他に年二回の納会、研修旅行、月二回の定例会などがあり室員の団結を深め、各々が目標意識を持って有意義な研究および研究室活動を行っています。

います。  
平成十二年度には畜産学科全体が厚木に移転するので少し悲しい気もしますが、今まで以上に楽しい研究室を目指していこうと思います。

平成10年度卒業論文題目

| 学籍番号      | 氏名    | 論文題目                                   | 指導教員  |
|-----------|-------|--|-------|
| 8095 0018 | 市村 保  | 豚回虫人工感染豚の臨床的観察                         | 近江 鈴木 |
| 8095 0019 | 伊藤 寛恵 | 飼鳥における飼育方法の検討                          | 西脇 渡邊 |
| 8095 0026 | 岩月 宣親 | 液卵の保存に関する研究・保存条件の検討                    | 渡邊 西脇 |
| 8095 0028 | 内馬場洋子 | 豚回虫の人工感染に関する研究・虫卵の培養法の相違が寄生率に及ぼす影響     | 近江 鈴木 |
| 8095 0030 | 繪野澤真樹 | Fusobacterium necrophorum の LPS に関する研究 | 渡邊 鹿江 |

|           |       |                                     |       |
|-----------|-------|-------------------------------------|-------|
| 8095 0036 | 岡本 圭介 | Propionibacterium animal is の遺伝学的研究 | 渡邊    |
| 8095 0040 | 奥野 知子 | 動物園内土壌における内部寄生虫卵の汚染状況               | 近江 渡邊 |
| 8095 0043 | 柏原 正樹 | 運動量の差異が雛の生理機能に及ぼす影響                 | 渡邊    |
| 8095 0044 | 梶ヶ谷友希 | 犬病変の臨床細菌学的検査                        | 鹿江 渡邊 |
| 8095 0053 | 菊地 信博 | 内部寄生虫駆除剤投与豚における肝白斑の発生状況             | 近江    |
| 8095 0058 | 木村 織恵 | 微生物応用基材の家畜糞尿処理に対する有効性の検討            | 渡邊    |
| 8095 0063 | 越村 吉晴 | 公園内排泄犬糞の内部寄生虫卵保有状況                  | 近江    |
| 8095 0067 | 小森 観世 | ダチョウの育雛期における衛生対策                    | 西脇 渡邊 |
| 8095 0072 | 斉藤 雅季 | 東北地方飼育牛における肝蛭虫体の同定について              | 近江 荻原 |
| 8095 0085 | 佐藤 夕子 | Consiilophilus suis の遺伝学的研究         | 渡邊    |
| 8095 0088 | 塩見 智範 | 豚疥癬症の診談に関する研究・虫体の検出法について            | 近江    |
| 8095 0091 | 柴田 恵子 | 犬鉤虫卵保有犬に対する駆除法の検討                   | 近江    |
| 8095 0103 | 高橋 優  | 路上排泄犬糞の内部寄生虫卵保有状況                   | 近江    |
| 8095 0104 | 高橋美帆子 | ドッグフード給与豚の発育時における臨床的観察              | 近江 鈴木 |
| 8095 0110 | 谷本 華子 | 寄生虫卵の培養に関する研究・特に線虫類について             | 近江 渡邊 |
| 8095 0117 | 寺島 彩  | 伴侶動物の衛生管理に関する研究・中高齢犬の疾病対策について       | 近江    |



|              |       |  |          |
|--------------|-------|--|----------|
| 8095<br>0175 | 宮崎 明子 | 内部寄生虫卵保有ヤギに対する駆除法の検討                   | 近江<br>渡邊 |
| 8095<br>0174 | 皆川由起子 | 動物園飼育下におけるインドゾウの排泄行動に関する研究特に排便について     | 近江       |
| 8095<br>0169 | 三浦 昌史 | 富士畜産農場飼育下反芻獣の内部寄生虫卵保有状況                | 近江<br>荻原 |
| 8095<br>0159 | 堀崎 成紀 | 犬フィラリア症に関する研究高齡犬における成虫駆除について           | 近江       |
| 8095<br>0141 | 比嘉かな子 | 動物園飼育下霊長類の衛生管理に関する研究・特に内部寄生虫卵の保有状況について | 近江       |
| 8095<br>0138 | 畠山 理衣 | 塊状糞排泄ヤギに対する臨床的考察・特に内部寄生虫との関係           | 近江<br>渡邊 |
| 8095<br>0118 | 照屋 光  | ミニチュア豚の伴侶動物としての学習能力について                | 近江<br>鈴木 |

家畜育種学研究室

家畜育種学とは、動物の進化の方向を、人間の必要とする方向に変更し、促進するための学問体系である。家畜育種学研究室では、家畜改良の基礎となる遺伝学、血清学、育種学、分子生物学的見地から広範囲にわたる研究活動が実施されています。

当研究室では、田中一栄教授をはじめ、天野卓教授の指導の下、野村助手、古郡実験助手、大学院生4名、4年生22名、3年生18名によって構成され、室員各自の自覚と互いの協力によりそれぞれの目標に向かって日々研究が続けられています。主な研究テーマとしては電気泳動による血液蛋白型の研究・モノクローナル抗体を用いた赤血球抗原型に関する研究・組織適合性抗原遺伝子のDNA解析などが行われています。

研究室での日常の活動では実験動物の管理、毎週行われるセミナー、定例会、卒業論文などの研究、実験における問題を解決するために討論されています。さらに、研究活動は学内だけでなくとどまらず、先生方は学会や研究のためにされ、また学生も他大学や他の研究機関に出向き研究を行っています。

研究室における主な年間行事は、新室員歓迎会、定期総会、収穫祭への参加、研修旅行、特別講演会、卒業論文発表会などがあります。

|              |       |                                      |          |
|--------------|-------|--------------------------------------|----------|
| 8095<br>0202 | 渡辺 信一 | 世田谷キャンパス内飼育ヤギの内部寄生虫卵保有状況             | 近江<br>荻原 |
| 8095<br>0205 | 渡邊夕里子 | 厩舎等における内部寄生虫卵の汚染状況について               | 近江       |
| 8097<br>5001 | 伊藤 恵美 | 不潔分泌物排出ミニブタの臨床的観察                    | 近江<br>鈴木 |
| 8094<br>0025 | 岩崎 涼子 | アメリカ合衆国アイオワ州ホスパーゲン農場における乳房炎の発生状況について | 近江<br>渡邊 |

平成10年度卒業論文題目

| 学籍番号         | 氏名    | 論文題目                        | 指導教員     |
|--------------|-------|-----------------------------|----------|
| 8095<br>0002 | 朝倉 義晴 | 牛血球膜グライコフォリンの構造と膜構造構築に果たす役割 | 天野       |
| 8095<br>0009 | 安藤 和弘 | 血液蛋白型によるウシの系統分類に関する研究       | 天野       |
| 8095<br>0014 | 石田美知恵 | ウシ核移植胚の初期化に関する遺伝子発現解析       | 田中<br>岩崎 |
| 8095<br>0016 | 石原 慎介 | ウシ赤血球抗原の免疫遺伝学的研究            | 天野       |
| 8095<br>0029 | 生方 俊信 | ヤギの個体識別遺伝子マーカーに関する研究        | 天野       |
| 8095<br>0055 | 岸本麻裕美 | 北海道酪農の生産性と収益性―都府県との比較において―  | 田中<br>新井 |



|                                |                 |                           |                  |                                 |                        |                         |  |                  |                           |                         |                      |                         |                         |                      |
|--------------------------------|-----------------|---------------------------|------------------|---------------------------------|------------------------|-------------------------|--|------------------|---------------------------|-------------------------|----------------------|-------------------------|-------------------------|----------------------|
| 8097<br>5007                   | 8097<br>5006    | 8097<br>5004              | 8095<br>0183     | 8095<br>0182                    | 8095<br>0181           | 8095<br>0176            | 8095<br>0116   | 8095<br>0111     | 8095<br>0109              | 8095<br>0093            | 8095<br>0089         | 8095<br>0075            | 8095<br>0066            | 8095<br>0056         |
| 鈴木 栄司                          | 塩岡 春美           | 川名 桃枝                     | 森田 由里            | 森木 綾子                           | 森 基嗣                   | 宮崎由紀子                   | 角田 美雪  | 多和田亜衣            | 田中 龍作                     | 島津ひろ美                   | 志岐 亮介                | 坂根 玄明                   | 駒屋健一郎                   | 北澤 晃                 |
| ウシ赤血球膜抗原に対するモノクローナル抗体の免疫遺伝学的研究 | ウシ赤血球蛋白の免疫化学的研究 | スイギュウMHCclass II遺伝子に関する研究 | ウシ赤血球抗原の免疫遺伝学的研究 | 牛胎子におけるRT-PCR法によるインプリント遺伝子の発現解析 | ウシMHCclass II遺伝子に関する研究 | マウスの胚発生に及ぼすSpemidineの影響 | 家畜臓器を用いたヒト人工臓器開発に関する基礎的研究体外循環装置における体液と体外液のアミノ酸バランスにつ | ヤギ赤血球抗原の免疫遺伝学的研究 | 走査電子顕微鏡によるカシミヤの微細構造に関する研究 | ウシ体外受精胚のステージ特異的遺伝子発現の解析 | ウシMHCclass 遺伝子に関する研究 | 家畜種間における赤血球膜成分の変異に関する研究 | 遺伝子情報にもとづく家畜の系統分類に関する研究 | ヤギの個体識別遺伝子マーカーに関する研究 |
| 天野                             | 天野              | 天野                        | 天野               | 田中 河野                           | 天野                     | 田中 河野                   | 天野   | 天野               | 天野                        | 田中 岩崎                   | 天野                   | 天野                      | 天野                      | 天野                   |

|                          |                         |                          |              |                       |                                       |                        |
|--------------------------|-------------------------|--------------------------|--------------|-----------------------|---------------------------------------|------------------------|
| 8095<br>0171             | 8095<br>0168            | 8095<br>0162             | 8095<br>0158 | 8095<br>0147          | 8095<br>0132                          | 8095<br>0123           |
| 水上 貴央                    | 三浦 大樹                   | 前田由里香                    | 堀江真由美        | 福本 理恵                 | 芳賀 早苗                                 | 仲田 剛                   |
| 血液蛋白型によるスイギュウの系統分類に関する研究 | 遺伝子情報にもとづく家畜の系統分類に関する研究 | マウスの卵巣内卵母細胞におけるアポトーシスの検出 | 乳価の季節変動とその要因 | 血液蛋白型によるヤギの系統分類に関する研究 | 家畜臓器を用いたヒト人工臓器開発に関する基礎的研究肝細胞分化促進因子の探索 | 家畜微量サンプルからの遺伝子増幅に関する研究 |
| 天野                       | 天野                      | 田中 河野                    | 田中 新井        | 天野                    | 天野                                    | 天野                     |

畜産物利用学研究室

本研究室は室長の山中良忠教授をはじめ、高橋強嘯託教授、古川徳助教授、松岡昭善助教授の4名の先生の御指導のもとに、大学院生4名、4年次生32名、3年次生27名の室員がそれぞれ活発な活動を行っております。研究テーマは、大きく次の5つに分けられます。

- ◎卵の生理活性物質
- ◎加熱ショック乳酸菌のチーズ熟成への利用に関する研究
- ◎乳酸菌の酵素活性を利用した食品の保存法に関する研究
- ◎発酵乳製品の栄養生理学的研究
- ◎各種畜肉の種族特異的タンパク質の検索及び栄養成分の比較研究

また、加工利用では消費者に対して有効でよりソフトな食品の開発に取り組み、さらに加工所における実習を通じて製造設備、製造技術への理解を深めることにも努力しています。

その他の主な活動としては食品に関するゼミナール、新入室員歓迎会、乳酸飲料製造実習、模擬店(コースハム、スモークドチキン、プリン等の製造実習などを通じて)への参加、研修旅行、卒業論文発表会、卒業生送別



会などがあり、こうした行事には素晴らしい団結力を発揮し活動しています。

平成10年度卒業論文題目

| 学<br>番<br>号 | 氏<br>名 | 論<br>文<br>題<br>目                       | 指<br>導<br>教<br>員 |
|-------------|--------|--|------------------|
| 8095 0006   | 新井 達也  | 伊豆海洋公園における海水魚の生態及び分類                   | 吉行               |
| 8095 0007   | 新井 英俊  | 酒粕漬けソーセージの細菌学的保存性に関する研究                | 松岡               |
| 8095 0010   | 飯田 優作  | アイスクリームの起泡安定性に及ぼす各種乳化・安定剤の作用           | 高橋               |
| 8095 0013   | 石黒 浩太  | DNAによる乳酸菌の迅速同定法                        | 古川               |
| 8095 0017   | 市川美佐恵  | 酒粕中で熟成させる生ハム製造に関する研究                   | 松岡               |
| 8095 0033   | 大角 尚子  | Probiotic乳酸菌の腸管定着性に関する研究               | 古川<br>高橋         |
| 8095 0121   | 中川 誠司  | 家禽肉熟成中の筋漿タンパク質および筋原線維タンパク質のSDS電気泳動像の変化 | 松岡               |
| 8095 0128   | 西岡 雅博  | モンゴル馬肉の脂質組成に関する研究                      | 松岡               |
| 8095 0139   | 濱田 和美  | ヤギ乳の静菌性に関する研究                          | 古川<br>山中         |
| 8095 0143   | 兵藤 維   | Probiotic乳酸菌の抗癌性に関する研究                 | 古川               |
| 8095 0144   | 平野 博之  | 脂肪酸組成による家禽肉の鑑別                         | 松岡               |
| 8095 0149   | 降旗 洋司  | モンゴル馬肉の遊離アミノ酸組成及び無機成分に関する研究            | 松岡               |
| 8095 0153   | 今村 玲砂  | 凍結乾燥酒粕を添加したソーセージの品質及び保存性に関する研究         | 松岡               |

|           |       |                               |          |
|-----------|-------|-------------------------------|----------|
| 8095 0031 | 大木 和代 | 馬乳酒中の乳酸菌の分離と同定                | 古川       |
| 8095 0048 | 川合 栄子 | Probiotic乳酸菌の消化管耐性と酵素活性に関する研究 | 高橋<br>古川 |
| 8095 0057 | 北野登志裕 | アイラグ中の酵母の分離・同定                | 古川       |
| 8095 0064 | 寿 淳子  | ウズラ肉の理化学的組成                   | 松岡       |
| 8095 0073 | 佐伯 宏美 | HPLCによる馬肉脂質組成の分析              | 松岡       |
| 8095 0098 | 菅原 千都 | 芳香性乳酸菌を用いる新型ヨーグルトの開発          | 高橋       |
| 8095 0106 | 高橋 里枝 | HPLCによるチーズ促熱指標の確立             | 高橋       |
| 8095 0112 | 千葉 拡  | 電気泳動法による発酵ソーセージタンパク質の追跡       | 松岡       |
| 8095 0120 | 内藤裕紀子 | モンゴル馬肉の理化学的組成                 | 松岡       |
| 8095 0157 | 堀 友和  | 烏骨鶏肉の理化学的組成                   | 松岡       |
| 8095 0163 | 松田 正弘 | アルコール含有発酵乳中の乳酸菌の分離・同定         | 古川       |
| 8095 0164 | 松田 美貴 | ヒートショック乳酸菌を用いるチーズ促熱法の研究       | 高橋       |
| 8095 0165 | 松葉 好世 | 発酵ソーセージ熟成中におけるタンパク分解作用        | 松岡       |
| 8095 0184 | 森山 素子 | 味付け卵の長期保存中の変化                 | 山中<br>古川 |
| 8095 0194 | 横山 剛  | ホロホロ鳥肉の理化学的組成                 | 松岡       |
| 8095 0195 | 吉田 貴俊 | 発酵乳のN2細胞活性に及ぼす影響              | 古川       |
| 8095 0196 | 吉田 隆之 | 真空下で発酵させたソーセージの乳酸菌の挙動         | 松岡<br>古川 |



|              |       |                             |          |
|--------------|-------|-----------------------------|----------|
| 8097<br>5008 | 永野真智子 | 高圧処理タンパク糖複合体の<br>抗菌作用に関する研究 | 古川<br>山中 |
| 8094<br>0009 | 安澤 豊  | 脂質組成による豚品種識別の<br>可能性        | 松岡<br>古川 |
| 8094<br>0020 | 井上 祐子 | 高圧処理によるタンパク複合<br>体形成に関する研究  | 古川<br>山中 |

家畜生理学研究室

家畜生理学研究室は、渡邊誠喜教授をはじめ、半澤恵助教授、吉田豊講師、原ひろみ副手の御指導のもと、大学院生7名(うち2名がタイからの留学生)、研究生3名、学部4年次生24名、3年次生24名で構成されています。本研究室では、家畜、家禽に発現する生理的な特徴やその生理的機構の遺伝的支配に関する研究が行われており、対象動物によって①ウマに関する研究②ウズラ・ニワトリに関する研究③ウシに関する研究④ヤギ・ラマ・クジャク等その他の動物に関する研究、に大きく分けられます。

①においては、運動生理上の赤血球の変化、造血幹細胞の培養と赤血球の成熟過程・生体内機能に関する免疫学的・血清学的解析、馬腫瘍由来細胞の株化に関する研究などが行われています。②においては、MHCに関する分子遺伝学的・免疫学的解析、血液型の解析に関する研究などが行われています。③においては、ウシの免疫学的・血清学的・内分泌学的解析が行われています。④においては、高温環境がシバヤギに及ぼす影響に関する研究、ラマの血液成分の解析、自然交配によるクジャクとニワトリの交雑種に関する研究、各種鳥類のDNAによる性別別などを行なっています。

研究室における日頃の活動は、3年次では生理学に関

する基礎的な知識や実験の技術を身につけると共に、実験動物の飼育管理、院生や学部4年生の卒業研究の補助として協力しています。4年次になると、前述した研究のほか、各個人が興味を持ったテーマを先生方とのディスカッションにより決定し、卒業論文研究を行っています。年間の主な行事として、新入室員歓迎会、研修旅行、卒業論文発表会、卒業生送別会、年2回の納会、週1回のゼミナール等があります。

平成10年度卒業論文題目

| 学籍番号         | 氏名    | 論文題目  | 指導教員     |
|--------------|-------|---|----------|
| 8095<br>0001 | 青木 由紀 | うずらの同種免疫による赤血球の分類                                       | 渡邊<br>半澤 |
| 8095<br>0015 | 石塚 裕子 | ウマ抹消血由来赤血球系幹細胞の最適培養条件の検索に関する研究                          | 渡邊<br>半澤 |
| 8095<br>0023 | 今福 奈緒 | 黒毛和種の分娩前後、並びにヒタミンA欠乏時における血中、乳中レチノイド量およびカロテノイド量の変動に関する研究 | 渡邊<br>吉田 |

|              |       |   |          |
|--------------|-------|---|----------|
| 8095<br>0027 | 岩橋 伸剛 | ニホンウズラ (Coturnix japonica) のTTCRのゲノム解析                  | 渡邊<br>半澤 |
| 8095<br>0042 | 柿崎 裕樹 | 馬腫瘍由来細胞の株化に関する研究  | 渡邊<br>半澤 |
| 8095<br>0045 | 加藤あかね | 加齢に伴うウズラのファブリキウス裏の組織学的並びに免疫学的変化                         | 渡邊<br>半澤 |
| 8095<br>0071 | 斉藤 拓也 | グルコースがMupin法を用いて分離した馬赤血球のMHC共輸送系に及ぼす影響                  | 渡邊<br>半澤 |
| 8095<br>0080 | 佐瀬 雄二 | 馬赤血球のアルギナーゼ遺伝子に関する基礎的研究                                 | 渡邊<br>半澤 |
| 8095<br>0081 | 佐藤加志吾 | ウシの脂肪細胞培養法の確立と培養脂肪細胞におけるレチノール添加の効果                      | 渡邊<br>吉田 |
| 8095<br>0084 | 佐藤 正寿 | 牛のレチノール結合蛋白質 (Retinol Binding Protein: RBP) の単離精製に関する研究 | 渡邊<br>吉田 |



|              |  |              |   |              |  |              |   |              |                  |              |   |              |   |              |                          |              |                         |
|--------------|--|--------------|---|--------------|--|--------------|---|--------------|------------------|--------------|---|--------------|---|--------------|--------------------------|--------------|-------------------------|
| 8094<br>0199 | 山本美智子  | 8095<br>0204 | 渡辺 修弘   | 8095<br>0199 | 若槻 大志  | 8095<br>0146 | 福島 紀子   | 8095<br>0145 | 福井由美子            | 8095<br>0131 | 根本 正敏   | 8095<br>0130 | 沼田 恵  | 8095<br>0127 | 成田 健                     | 8095<br>0125 | 中山 綾                    |
|              | 自然交配により産出されたクジャクとニワトリの属間雑種における免疫学的手法を用いた親子鑑定 |              | ウマ末梢血由来成熟赤血球及び赤血球系幹細胞における $\alpha$ ・ $\beta$ ・ $\gamma$ の血液型抗原の出球状況に関する研究 |              | ニホンウズラ (Coturnix japonica) の MHC class I の各遺伝子型 (A・B・C・D) における多型解析 |              | PCR法を用いたモモイロペリカン (Pelecanus onocrotalus) の性別別並びに性特異バンドの塩基配列解析 |              | 馬腫瘍由来細胞の株化に関する研究 |              | 酸およびアルカリがMurphy法を用いて分離した馬赤血球のK <sub>1</sub> -共輸送系に及ぼす影響 |              | ニホンウズラ (Coturnix japonica) の MHC class I B遺伝子座 $\alpha$ 1 $\sim$ $\alpha$ 2領域におけるROR-RFLP解析 |              | 高温環境に対するシバヤギの生理的応答に関する研究 |              | ニワトリにおけるT細胞表面抗原の加齢に伴う変化 |
|              | 吉田   | 半澤           | 渡邊  | 半澤           | 渡邊   | 半澤           | 渡邊  | 半澤           | 渡邊               | 半澤           | 渡邊  | 半澤           | 渡邊  | 半澤           | 渡邊                       | 半澤           | 渡邊                      |

|              |  |              |   |              |  |              |   |              |                 |
|--------------|--|--------------|---|--------------|--|--------------|---|--------------|-----------------|
| 8095<br>0191 | 山田 福子  | 8095<br>0186 | 八木 伸也                                       | 8095<br>0180 | 村本 彩   | 8095<br>0179 | 村上 静  | 8095<br>0173 | 三田 和代           |
|              | 自然交配によるクジャクとニワトリの属間雑種の形態的特徴ならびに血液中の酵素多型による親子鑑定 |              | 酸およびアルカリがMurphy法を用いて分離した馬赤血球の容積および溶血率に与える影響 |              | 拘束ストレスがニホンウズラ (Coturnix japonica) のCRF系列のホルモン分泌量に与える影響について |              | ニホンウズラ (Coturnix japonica) の MHC II 遺伝子座における各対立遺伝子 (I・II・III・IV) のシーケンス解析 |              | ウマ胎児細胞の株化に関する研究 |
|              | 半澤   | 半澤           | 渡邊  | 半澤           | 渡邊   | 半澤           | 渡邊  | 半澤           | 渡邊              |

### 家畜飼養学研究室

家畜飼養学は、家畜生産の基礎であり、家畜飼養技術は、畜産経営の中で最も重要な位置を占めている。そこで我が研究室では、家畜飼養学の柱である家畜栄養学、飼料学、家畜管理学をふまえ、伊藤澄磨教授、浜田龍夫教授（嘱託）、栗原良雄教授、祐森誠司講師を中心に、富士畜産農場の先生方の協力を得て、家畜（ウサギ、ラットを含む）の飼育管理、エネルギー代謝、主要な栄養素とその代謝、消化・吸収・反芻の機序、資料（サイレージを含む）の生産と特質等の研究を行っている。研究室行事として、主に三年生を中心に六月に富士畜産農場における畜産実習、夏期休暇中における群馬県浅間家畜育成牧場および神津牧場での家畜管理実習、飼料の一般成分分析実験を行うと共に、十一月には収穫祭にも模擬店等に積極的に参加している。研究室全体として、年二回の納会、秋の畜産関連諸施設の見学を兼ねた研修旅行で室員相互の親睦を計っている。四年生になると卒業論文のための実験および研究が中心になり、計画発表会および研究成果発表会を通してお互いに研鑽している。



平成10年度卒業論文題目

| 番号        | 氏名    | 論文題目  | 指導教員  |
|-----------|-------|---|-------|
| 8095 0003 | 朝日 新  | 豚の配合飼料のペレット化に関する研究                                      | 伊藤 鈴木 |
| 8095 0012 | 飯山 博文 | 埼玉県における採卵養鶏の歴史について                                      | 伊藤    |
| 8095 0022 | 稲村 崇浩 | 給与飼料(タブレット)の硬さが子豚の嗜好性におよぼす影響 常温暖環境の場合                   | 伊藤 池田 |
| 8095 0024 | 今別府竜馬 | 富士畜産農場圃場における牧草の成長、収量および養分収量 一番草について                     | 伊藤 栗原 |
| 8095 0025 | 芋田 忠明 | 青森県における配合飼料流通の現状  | 伊藤    |
| 8095 0041 | 小嶋 徹也 | 茨城県における養豚の現状  | 伊藤    |
| 8095 0083 | 佐藤 雅子 | 小型バックサイレージの調製に関する研究 水分含量が品質におよぼす影響                      | 栗原 伊藤 |
| 8095 0087 | 澤田 玲  | 食糞阻止ラットに採取含水糞を給与した場合の成長について                             | 池田 祐森 |
| 8095 0095 | 清水裕希子 | 小型バックサイレージの調製に関する研究 水分含量が化学成分におよぼす影響                    | 栗原 伊藤 |
| 8095 0096 | 白鳥 史記 | 富士畜産農場圃場における牧草の成長、収量および養分収量 2・3番草について                   | 栗原 伊藤 |
| 8095 0097 | 城 友美子 | 環境要因と牛排泄物臭気ガスの発生との関係 特に、気温について                          | 栗原 伊藤 |
| 8095 0097 | 神官寺貴仁 | 山梨県のブロイラー産業に関する研究 ブロイラー生産の歴史について                        | 伊藤    |
| 8095 0051 | 神田 正己 | 歩行運動が豚の生理反応におよぼす影響 肥育前期から出荷まで1日3km歩行させた場合               | 伊藤 鈴木 |
| 8095 0061 | 熊上 秀幸 | リードカナリীগラスのアルカロイドに関する研究 3番草における日射量とアルカロイド含有量との関係(栽培2年目) | 栗原 伊藤 |
| 8095 0069 | 後藤 周平 | 家兎の発育ステージにおける消化率について                                    | 栗原 祐森 |
| 8095 0076 | 坂寄 敦子 | 家兎の成長と摂取養分量の関係  | 栗原 祐森 |
| 8095 0077 | 佐久間 崇 | 給与飼料(タブレット)の硬さが子豚の嗜好性におよぼす影響 常温暖環境の場合                   | 伊藤 池田 |
| 8095 0079 | 佐々木英貴 | 歩行運動が豚の肉質、特に物理的性状におよぼす影響 肥育前期から出荷まで1日3km歩行させた場合         | 伊藤 鈴木 |
| 8095 0102 | 高橋 壱  | 食糞阻止方法の違いがラットの成長におよぼす影響                                 | 池田 祐森 |
| 8095 0113 | 辻 啓太  | 環境温度の日内変動幅がブロイラーの成長におよぼす影響 日内変動回数を1回から2回に増やした場合         | 栗原 祐森 |
| 8095 0119 | 徳力 美雪 | 豚の配合飼料のタブレット化に関する研究                                     | 池田 伊藤 |
| 8095 0133 | 橋本 和彰 | リードカナリীগラスのアルカロイドに関する研究 2番草における日射量とアルカロイド含有量との関係(栽培2年目) | 栗原 伊藤 |
| 8095 0136 | 長谷川達弘 | 環境温度の日内変動幅がブロイラーの体成分におよぼす影響 日内変動回数を1回から2回に増やした場合        | 栗原 祐森 |
| 8095 0137 | 長谷川雅彦 | 給与飼料(タブレット)の硬さが子豚の嗜好性におよぼす影響 高温環境の場合                    | 伊藤 池田 |



|              |       |  |          |
|--------------|-------|--|----------|
| 8097<br>0189 | 山口 エミ | 牛排泄物の環境要因による化学組成の変化について 特に気温について                     | 栗原<br>伊藤 |
| 8095<br>0167 | 馬淵 智子 | 歩行運動が豚の肉質、特に化学的性状におよぼす影響 肥育前期から出荷まで1日3km歩行させた場合      | 伊藤<br>鈴木 |
| 8095<br>0166 | 松本洋一郎 | 環境温度の日内変動幅がプロイラーのエネルギー代謝におよぼす影響 日内変動回数を1回から2回に増やした場合 | 栗原<br>祐森 |
| 8095<br>0154 | 星野 大士 | 歩行運動が豚の成長におよぼす影響 肥育前期から出荷まで1日3km歩行させた場合              | 伊藤<br>鈴木 |
| 8095<br>0151 | 古荘 隆徳 | 滋賀県の肉牛生産の現状  | 伊藤       |
| 8095<br>0140 | 次田 一行 | 神奈川県養豚の現状  | 伊藤       |

|              |       |                                      |          |
|--------------|-------|--------------------------------------|----------|
| 8095<br>0181 | 李代 武幸 | 給与飼料(タブレット)の硬さが子豚の嗜好性におよぼす影響 高温環境の場合 | 藤田<br>伊藤 |
| 8095<br>0203 | 渡辺 竜也 | 静岡県における配合飼料流通の現状                     | 伊藤       |
| 8095<br>0198 | 米山 優子 | 低温環境下における運動がラットの体組成におよぼす影響           | 池田<br>祐森 |

家畜繁殖学研究室

当研究室では百目鬼教授をはじめ、田中教授、門司助教、桑山講師、佐藤講師、小川講師、の御指導のもと、大学院生8名、4年生32名、3年生26名の室員が活動しています。

当研究室では、家畜・家禽の効率的な繁殖方法を追求することを目標とし、繁殖生理に関する研究、人工授精ならびに受精卵移植に関する研究を日々行っています。具体的には、生殖リズムとホルモンに関する研究、繁殖行動の内分泌支配に関する研究、精子及び卵子の凍結保存に関する研究、体外授精等の先端技術の研究です。

繁殖学研究室の活動内容として、3年生は繁殖学に関する基礎的な知識や実験等を身につけるとともに、実験動物の飼育、管理を学び、4年生の卒業実験の補助等を行っています。4年生になると動物の管理はもちろん、卒論にむけて日々の研究を重ねています。

年間の活動内容としては、新入生歓迎会、年2回の納会、大掃除、研修旅行、卒業論文発表会、卒業生送別会、毎週行われるゼミ等があります。

平成10年度卒業論文題目

| 学籍番号         | 氏名    | 論文題目                                 | 指導教員      |
|--------------|-------|--------------------------------------|-----------|
| 8095<br>0004 | 阿部 千晶 | ニホンウズラの加齢に伴う血漿メラトニン温度について            | 田中<br>桑山  |
| 8095<br>0008 | 有馬 秀樹 | ミニチュアブタの過剰排卵誘起処置について                 | 百目鬼<br>門司 |
| 8095<br>0020 | 稲田 博子 | 雄鳥骨鶏における繁殖機能の季節的変動について               | 田中<br>桑山  |
| 8095<br>0032 | 大久保美里 | 育雛中の母鶏からの雛の隔離が母鶏の卵巣機能に及ぼす影響          | 田中<br>桑山  |
| 8095<br>0035 | 岡田 綾美 | ミニチュアブタにおけるのH2O2製剤投与による排卵誘起について      | 百目鬼<br>門司 |
| 8095<br>0049 | 河路 恭太 | ブタ凍結精液の保存液に添加する卵黄の違いが精子生存性およびアクロソーム形 | 門司<br>桑山  |



|                               |                            |   |                                   |                                       |                                    |
|-------------------------------|----------------------------|---|-----------------------------------|---------------------------------------|------------------------------------|
| 8095<br>0190                  | 8095<br>0188               | 8095<br>0187                              | 8095<br>0178                      | 8095<br>0172                          | 8095<br>0170                       |
| 山崎 武                          | 柳 竜太                       | 安田 佳世                                     | 村上 江美                             | 水上 大助                                 | 三嶋 純雄                              |
| 乳牛の泌乳量ならびにその変動と分娩後の繁殖機能回復との関係 | シバヤギにおけるメラトニン投与による造精機能への影響 | 造精機能低下を示すミニチュアブタにおけるGnRHおよびGTH製剤の投与効果について | 雌シバヤギの春期発動前後の膣垢像および性ステロイドホルモン濃度推移 | ミニチュアブタの妊娠期における生殖器内の生理的諸性状および性ホルモンの変動 | ホロホロチョウにおける血漿カルシウム、マグネシウム、リン濃度について |
| 佐藤 百目鬼                        | 門司 桑山                      | 門司 百目鬼                                    | 門司 百目鬼                            | 門司 百目鬼                                | 田中 小川                              |

|  |                            |                   |                           |                                       |                                 |                               |
|--|----------------------------|-------------------|---------------------------|---------------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|
| 8094<br>0174                                 | 8097<br>5010               | 8097<br>5009      | 8097<br>5005              | 8097<br>5002                          | 8095<br>0197                    | 8095<br>0193                  |
| 右田 義一  | 上原 泉                       | 三富絵里子             | 小林 司之                     | 大草 裕美                                 | 吉田 岳洋                           | 山本 雅俊                         |
| プロスタグランジン <sub>2</sub> を用いたミニチュアブタの発情同期化について | 雄岐阜地鶏の加齢に伴うストレスに対する反応性について | ウシ発育途上卵母細胞の培養法の検討 | 肉牛における分娩前後の飼料充足率と繁殖機能との関係 | 卵丘細胞の部分除去処理がガラス化保存したブタ未成熟卵子の生存性に及ぼす影響 | 乳牛における乾乳期の栄養管理が分娩後の繁殖機能回復に及ぼす影響 | 繁殖肉牛における繁殖管理のためのJMRの応用と問題点の改善 |
| 門司 百目鬼                                       | 田中 桑山                      | 門司 百目鬼            | 門司 佐藤                     | 門司 百目鬼                                | 佐藤 百目鬼                          | 門司 佐藤                         |

|                                    |  |                       |                       |                            |                                |
|------------------------------------|--|-----------------------|-----------------------|----------------------------|--------------------------------|
| 8095<br>0090                       | 8095<br>0082                           | 8095<br>0070          | 8095<br>0068          | 8095<br>0062               | 8095<br>0054                   |
| 篠原 道明                              | 佐藤 友之                                  | 斉藤 茂樹                 | 後藤 和人                 | 栗山 圭一                      | 岸水 夏奈                          |
| ミニチュアブタにおける精液の射精型の分類および精液の5℃保存について | 発生培地に添加するウシ胎児血清の脱脂処理が凍結保存後の胚の生存性に及ぼす影響 | シバヤギの人工流産後における繁殖機能の回復 | ブタ精液の急速ストロー法による耐凍剤の検討 | シバヤギにおける陰囊の大きさ造精機能との関係について | 雌鳥骨鶏における性ステロイドホルモン分泌の季節的変動について |
| 門司 百目鬼                             | 門司 百目鬼                                 | 桑山 百目鬼                | 門司 百目鬼                | 門司 百目鬼                     | 田中 桑山                          |

|                       |               |                     |  |                                     |                        |                                    |
|-----------------------|---------------|---------------------|--|-------------------------------------|------------------------|------------------------------------|
| 8095<br>0161          | 8095<br>0152  | 8095<br>0135        | 8095<br>0134                             | 8095<br>0122                        | 8095<br>0114           | 8095<br>0101                       |
| 前楚 和秀                 | 古田 凡          | 橋本 径子               | 橋本 純子                                    | 中澤 庸子                               | 辻見 洋介                  | 高久 和徳                              |
| ガラス化保存したウシ胚盤胞の融解方法の検討 | 雄鳥骨鶏の繁殖能力について | ウシ体外成熟卵子の活性化処理条件の検討 | シバヤギの排卵誘起処置後における卵巣の経時的変化と性ステロイドホルモン濃度の推移 | 体外成熟途上でガラス化保存したブタ未成熟卵の生存率と体外成熟率について | ニホンウズラ(バンダ羽装)の繁殖管理について | シバヤギの卵巣疾患に対するGnRHおよびGTH製剤の投与効果について |
| 門司 百目鬼                | 田中 桑山         | 門司 百目鬼              | 桑山 百目鬼                                   | 門司 百目鬼                              | 田中 桑山                  | 門司 百目鬼                             |



家畜学研究室

本研究室は、室長の大谷忠教授をはじめ、鈴木伸一助教授、荻原國威講師、西脇充講師の4名の先生の御指導のもとに、4年次生28名の室員で日々の研究室活動を行っています。平成十年に新しく設立された研究室であるため、卒業生がまだいなく、運営面に対して前例が無いことが多く、他の研究室の様にスムーズにいかない面も有りますが、先生方と室員が個々の研究のことで上手くまとまり、充実した毎日を送っております。

本研究室の研究は、家畜・家禽・産業動物・草地・環境保全・生産物流通ならびにこれらの情報など、畜産全般にわたる管理技術を国内外の実習・研修を通して理解を深め、これらから得られた技術と知識を家畜生産に用いることが大きなテーマであります。

今行っている主な研究内容は

- ◎畜産をとり入れたアグリツーリズムに関する研究
  - ◎産業動物の管理技術の向上
  - ◎モンゴルの草地と家畜生産に関する研究
  - ◎環境保全(有機物資源の堆肥化)に関する研究
- など畜産について直接・間接的にかかわる広い分野の研究です。

年間行事としては、新入生歓迎会、月2回の定例会、年2回の納会、研修旅行などです。  
本研究室は設立したばかりで今年の卒業生はまだいません。

野生動物学研究室

日本の哺乳類学は、第二次大戦まで分類学が主流であった。戦後の生態研究は、まずネズミとサルから始まった。戦後復興のために森林を伐採した跡の植林地では、増えた野ネズミの害に悩まされた。そこで、ネズミの個体群動態が研究されるようになった。一方、ニホンザルは社会行動の研究が注目を集めた。その後、野生動物の生態調査や行動観察の対象が広がり、大型獣でも成果があらうようになった。

二十一世紀に向け、我々野生動物学研究室では、個々の個性と自由な発想をそれぞれの研究(サル・ネズミ・コウモリ・モグラ・ハクビシンなど)にいかし日進月歩している。

最後に我々は卒業論文を書くために、必ず一度は、フィールド調査に行き、サンプル捕獲や行動観察などを行うのだが、そのつど自然は生物にとって、とても大切にということを体全体で体感した。

平成10年度卒業論文科目目

| 学籍番号      | 氏名    | 論文題目                 | 指導教員 |
|-----------|-------|----------------------|------|
| 8095 0005 | 天野 博之 | 伊豆海洋公園における海水魚の生態及び分類 | 吉行   |

|           |       |                                    |    |
|-----------|-------|------------------------------------|----|
| 8095 0060 | 久保田 隆 | 奥多摩におけるナガレタゴガエルの生態に関する研究           | 吉行 |
| 8095 0052 | 神田 恭彦 | 埼玉県秩父地方におけるハクビシンの分布と被害に関する研究       | 吉行 |
| 8095 0050 | 河埜 龍也 | 馬体における蹄の重要性に関する研究                  | 吉行 |
| 8095 0037 | 尾形 大介 | 井の頭自然公園におけるニホンリスの行動について            | 吉行 |
| 8095 0034 | 大庭 明和 | カヤネズミの行動学的研究一飼育下における巣作り行動とその構造について | 吉行 |
| 8095 0021 | 稲原 稔久 | 東京農業大学農友会馬術部のサラブレッドの行動の比較検討        | 吉行 |
| 8095 0011 | 飯塚 健史 | 埼玉県下におけるモグラの分布と環境の解析               | 吉行 |



|  |                         |                         |                              |                                |                          |  |                                      |
|--|-------------------------|-------------------------|------------------------------|--------------------------------|--------------------------|--|--------------------------------------|
| 8095<br>0108                             | 8095<br>0107            | 8095<br>0105            | 8095<br>0099                 | 8095<br>0092                   | 8095<br>0078             | 8095<br>0074                             | 8095<br>0065                         |
| 田中 萩                                     | 田中 孝幸                   | 高橋 良易                   | 鈴木 友我                        | 洪水 陽介                          | 佐々木成野                    | 坂井 隆浩                                    | 小西 啓之                                |
| アカネズミ属のレンズ重による<br>齢査定法ならびに本州各地<br>行動について | ヒメネズミの飼育下における<br>行動について | 埼玉県下におけるモグラ分布<br>と環境の解析 | 奥多摩におけるナガレタゴガ<br>エルの生態に関する研究 | 奥多摩町日原におけるニホン<br>ザルの生態とその季節的変化 | 埼玉県下におけるモグラの分<br>布と環境の解析 | 大島におけるキクガジコウモ<br>リの生態・飼育ならびに分類<br>に関する研究 | アカネズミ属の地域間におけ<br>る形態及び行動に関する比較<br>研究 |
| 吉行                                       | 吉行                      | 吉行                      | 吉行                           | 吉行                             | 吉行                       | 吉行                                       | 吉行                                   |

|   |   |                                |                            |                           |                             |                          |
|---|---|--------------------------------|----------------------------|---------------------------|-----------------------------|--------------------------|
| 8095<br>0177                            | 8095<br>0155  | 8095<br>0148                   | 8095<br>0142               | 8095<br>0129              | 8095<br>0126                | 8095<br>0115             |
| 村石 剛史                                   | 綱井 康弘   | 藤井 淳子                          | 東 孝範                       | 丹羽 範之                     | 長倉 安宏                       | 辻本 明広                    |
| 鶏卵牧場における黒毛和種の<br>成長(胸囲・管囲)と行動に<br>関する研究 | 北アルプスのライチョウその<br>生態と行動・特に立山・室堂<br>におけるライチョウの土地利<br>用性について | アカネズミ属の地域間におけ<br>る形態及び行動的な比較研究 | T・日牧場におけるホルスタ<br>インの行動について | 神奈川県におけるモグラの棲<br>息環境と環境分析 | ウコッケイ及びトウテンコウ<br>の系統と行動について | 埼玉県におけるモグラの棲息<br>環境と環境分析 |
| 吉行                                      | 吉行  | 吉行                             | 吉行                         | 吉行                        | 吉行                          | 吉行                       |

|                               |                         |                         |
|-------------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 8097<br>5003                  | 8095<br>0201            | 8095<br>0185            |
| 荻野 一人                         | 渡邊 和哉                   | 門前 慶太                   |
| 世田谷区都市公園におけるモ<br>グラの生息状況と環境分析 | 果樹園に出没するハクビシン<br>に関する研究 | ハタネズミの食性および消化<br>機構について |
| 吉行                            | 吉行                      | 吉行                      |



収穫祭禁断症状

畜産学科2年 池田 貴司

叫んでいた。そう、確かに叫んでいた。絶叫にも似た歓喜の声を。あれは忘れもしない収穫祭4日目の体育祭でのことである。

私を知る人は知っていると思うが、私が体育祭に携わったのは今年で2度目である。昨年、先輩に誘われて軽い気持ちで始めた収穫祭。私は体育祭の応援合戦をメインにやることになったのだが、これがまた何気にシンドかったりするのだ。舞を覚えるのに一苦労、それを音と合わせるので一苦労。確かに辛くて大変だったけど、不思議と本番が近づくとつれて気分が高揚してくるのである。そして本番が終わると達成感、安堵感もさることながら何よりも来年もやりたいという欲望に満たされたのだ。

そして向えた今年の第107回収穫祭。例によって今年も体育祭の応援合戦をメインに参加。昨年もやったから楽なもんだとタカをくくっていたらこれが見事に大間

違い。練習初日にして早くも筋肉痛である。これがまた日を重ねるごとに痛くなるのだからたまらない。私などは3日目には既に走れなくなっていた。しかしそれは楽しいメンバーと共に収穫祭を形作っていくうちにいつの間にか乗り越えることができていた。

いよいよ11月4日体育祭当日がやってきた。昨年は団長を中心に左班と右班に別れ、私は左班で参加。今年も左班で参加する予定だったが急遽右班へ。左班と右班は線対称の舞になるため、舞を覚えるのが大変だなあと思っただけが難無く覚えることに成功した。まあ、私ぐらいになっちゃうと……いや、謙虚に生きよう。と、いうことで、右班のしかも副団長をやらされていただきました。緊張の面持ちで始まった畜産学科の応援合戦。グラウンドに1歩足を踏み入れた途端、周囲の音が遠くなり、頭の中も真っ白になった。正直言うの間違えずに舞えたかどうかは覚えていない。覚えているのは体育祭中ずっと叫んでいたということだけである。

最初のうちは本当になんちゃってな気分に参加した体育祭が、今では時々発作的に禁断症状が出るほどにまで私にはなくてはならないものになっている。収穫祭は最高である。そんな収穫祭をあんなに楽しいメンバーと一緒にできたことを心から感謝すると共に、来年もよろしくお願ひします。

厚キャンから腹一杯の

愛をこめて♡

畜産学科1年 鈴木 木明子

我らは厚キャン娘っ子群。もちろんアタシもその一人。いっつも「けやき」の自販機のそばで喋くりながら食べたり笑ってうるさくしてる集団です。うちらは、さかのぼること一年前、この厚キャンパスで産まれたの。かっこよく言っちゃうと「必然の出会い」ってヤツ？まあぶっちゃけていうといつの間にか一緒に過ごしてるとも言えちゃうけど、ここは一つかっこいい方の「必然の出会い」っちゃうことにしちゃいませよ。だって、会うべくして出会ったんだもん。でも、良く振り返ってみるとこんなにもうちらが愛しあえたのは、この厚キャンだったからじゃない。人が少ない利点ともいうべき座席ほぼ指定制のお昼とか他にやることないからとかかくいっつも一緒に喋っててさ。そんなこんなで、一年の子の顔はだいたい知ってるし、沢山友達ができて、なんてったって一年の横のつながりがとって強いんだから。確かに、先輩とは離れて会いたくて会いたくて……一緒に遊んでほしくってなかなか会えないっていううちよっぽど寂しい

思いもあるけど、そんな風に大学の一つの学年が団結できる力があるっていうのはちょっと素敵じゃない？

先生方も、そして我らが愛し崇拝する先輩方も、この厚キャンにいろいろと力を借して下さって何かと行事が多いの。あっそうそう「モモ」という名の仔牛ちゃんも厚キャンのためにくれたんだぞ。そのモモちゃんが来た時なんて十三種類のチーズを食べてのパーティーあってそのほかにもソフトボール大会とか映画会とかクリスマス会とかいろいろ企画してくれて、それに厚キャンの悩みとかも快く聞いてくれるしね。そうなのよいろいろな行事に参加する度にうちの愛もより深まっていったことを昨日のことのように鮮明に覚えてるわ。

そして「愛」といえばコレよコレ！「カ月（正確にいつちや夏休みからだったの）ずっと世田谷の四号館を寝床にして、こっちの自分の家に帰ってくるのは朝、お風呂に入る時だけという準備期間をすごした「収穫祭」もあるのよ。これには我らが娘っ子群が参加していたんだ。もちろん畜産学科統一本部としての参加でした。ずっと大好きな先輩達と一緒に暮らしている毎日、とっても素敵な日々で今思い出してみると幻？と思えちゃうくらいで、この文読んでても「オイオイ何いってんだ」って思われるかもしれないけど、とにかく参加すればこの何とも言えない疲労感と幸福感があるのが分かってもらえるんじゃないかな？

とりあえず理解してもらええる様にしたいのうちのら



## 平成10年度畜友会事業報告

畜友会だより

- 7月14日 平成9年度畜友会定期総会  
第27回学内スポーツ大会慰労会（於 4号館）
- 8月2日 1年生を対象とした収穫祭説明会（於 富士畜産農場）
- 9月11日～ 畜友会夏期合宿（於 静岡県南伊豆弓ヶ浜 ※自費）  
12日
- 10月8日 第107回収穫祭畜産学科統一本部本部開き  
（於 レストラン・すずしろ）
- 10月31日～ 第107回収穫祭参加  
11月4日
- 11月19日 第107回収穫祭畜産学科統一本部慰労会  
（於 レストラン・すずしろ）
- 3月1日 畜友会誌「ふじみの第34号発刊」
- 3月20日 卒業祝賀会・卒業記念品贈呈
- 4月上旬 新入生学外オリエンテーション参加
- 5月上旬 新入生歓迎会
- 5月中旬 学内スポーツ大会団結式
- 5月中旬～ 学内スポーツ大会  
6月中旬
- 5月下旬 平成11年度畜友会総会

※4月以降の事業については今後実施する予定です。

動きを示しちゃいましょう。一年女子に任される大きな仕事は「炊き出し」でございまして、これが結構しんどかった。なぜなら：やっぱり世田谷と厚木との距離と時間です。夜御飯はだいたいPM8時くらいには遅くても食べはじめられるようにしなくっちゃならないんだ。四限で終わって向かっても着くのは五時近くになって買い出しって……ってネ。それに毎日のメニューを何にしようかなどなど。でも、作ったうちらが言うのも何だけど、そんなにマズイものは作ってなかった……ハズ。あと、うちらが参加してた部門は北門装飾と体育祭の方よね。（他の部門には家畜苑があるんだけど、こっちは力仕事だから女の子は手伝えなくて男の仕事になってんの。）応援合戦の人数が全然間に合わなくて必死に駆けずりまわって泣きおどし作戦で人数を集めたり、舞いを厚キャンの屋上で皆んなで練習してさ、身心共に痛めて、そんで本番では超緊張しすぎて自分が舞っているという実感なくて、あんなに練習したのにいつのまにか終わってたということもあったし……今年ももっと余裕もって舞ってやる！（もちろん舞う時の心は畜魂）ちょっと個人的になっちゃったけど私にとっては応援合戦はとってもイイカンジのものでした。あとこっちは女の仕事である北門装飾で、女ながらにコンパネと格闘してすごいものを作られていらっしやいました。すべてを組合わせた時の達成感はすごいんだろうなあ。そんなような生活をずっとして、本当に人間らし

い生活してなくて、文字通り身心共に疲れるのに、またすぐにでも活動したくて、ごくたまに授業を自主休講にしちゃったりするくらいすっごくはまっちゃうんだなって、うちらはもう、ファミリーとしての存在になっちゃって、もう誰が欠けてもダメ。ウフフ。  
そんな一年……いやいや四年間を過ごせちゃう『厚キャンライフ』が本社創立記念といたしまして無料お試しセットがついてナント特別価格一九九九ペソで御奉仕中。そう、そのアナタ、お一ついかが？



## 東京農業大学農友会第107回収穫祭 畜産学科統一本部収支報告

|          | 予 算     | 支 出     | 差引残高   |
|----------|---------|---------|--------|
| 統 一 本 部  | 350,000 | 295,800 | 54,200 |
| 前夜祭・特別企画 | 50,000  | 29,986  | 20,014 |
| 体 育 祭    | 50,000  | 49,781  | 219    |
| 宣 伝 隊    | 150,000 | 146,651 | 3,349  |
| 北 門 装 飾  | 10,000  | 0       | 10,000 |
| 家 畜 苑    | 150,000 | 138,378 | 11,622 |
| 計        | 760,000 | 660,596 | 99,404 |

上記相違ないことを認めます。

東京農業大学農友会創立107回収穫祭

畜産学科統一本部会計

平成10年度畜友会会計監査

古 川 徳 ㊟  
松 岡 昭 善 ㊟  
後 藤 和 人 ㊟  
田 端 将 人 ㊟

## 平成10年度畜友会決算報告

(平成10年2月28日現在)

| 収入の部             | 予 算       | 決 算       | 差引残高      |
|------------------|-----------|-----------|-----------|
| 前年度繰越金<br>(会費収入) | 1,477,688 | 1,477,688 | 0         |
| 新 入 生            | 2,000,000 | 472,500   | 1,527,500 |
| 編 入 生            | 90,000    | 10,000    | 80,000    |
| 未 納 会 員          | 1,636,000 | 132,000   | 1,504,000 |
| 利息及び雑収入          | 1,500     | 3,040     | △ 1,540   |
| 計                | 3,727,500 | 617,540   | 3,109,960 |

| 支出の部      | 予 算       | 決 算     | 差引残高      |
|-----------|-----------|---------|-----------|
| スポーツ大会援助費 | 300,000   | 34,610  | 265,390   |
| 収穫祭援助費    | 760,000   | 660,596 | 99,404    |
| ふじみの刊行費   | 400,000   | 26,220  | 373,780   |
| 卒業生祝賀会費   | 200,000   | —       | 200,000   |
| 卒業生記念品費   | 500,000   | —       | 500,000   |
| 新入生歓迎会費   | 250,000   | —       | 250,000   |
| 消 耗 品 費   | 100,000   | 37,711  | 62,289    |
| 交 通 費     | 180,000   | 65,960  | 114,040   |
| 雑 費       | 100,000   | 15,920  | 84,080    |
| 予 備 費     | 160,000   | 0       | 160,000   |
| 計         | 2,950,000 | 841,017 | 2,108,983 |



# 創立一〇七年収穫祭結果報告

## 前夜祭・特別企画

総合順位

前夜祭

野外劇

先生のご自慢

大谷 忠先生

天までとどけ！ダバダ歌合戦

松葉 好世

市川 美佐恵

鈴木 明子(他)

それいけ農大大集合

九位  
十位  
銅賞

## 体育祭

総合順位

玉入れ

農大健児の意気を見よ！

騎馬戦

先生頑張って

綱引き

各学科対抗リレー

男子

女子

応援合戦

やぐら装飾

競技総合

三位  
四位  
六位

十二位  
十一位  
十位

二十位  
二十一位  
二十二位  
二十三位

## 宣伝隊

農大通り賞

みこしコンテスト

優勝  
五位

優勝  
七位  
十位

# 第二十八回 学内スポーツ大会結果報告

## 総合

バレーボール

(男子)  
(女子)

二回戦敗退  
一回戦敗退

ドッチボール  
相撲

一回戦敗退  
優勝

バスケットボール

(男子)  
(女子)

一回戦敗退  
一回戦敗退

バドミントン

二回戦敗退

フリースロー

準優勝

ゲートボール

三位

十五人なわとび

優勝

ミニサッカー

一回戦敗退



## 平成11年度畜友会事業計画（案）

（平成11年6月1日～平成12年5月31日）

|                  |                     |
|------------------|---------------------|
| 平成11年6月中旬        | 学内スポーツ大会            |
| 6月下旬             | 厚木ソフトボール大会          |
| 8月上旬             | 1年生を対象とした収穫祭説明会     |
| 10月上旬            | 第108回収穫祭畜産学科統一本部開き  |
| 10月31日<br>～11月4日 | 第108回収穫祭参加          |
| 11月中旬            | 第108回収穫祭畜産学科統一本部慰労会 |
| 平成12年3月上旬        | 畜産会誌「ふじみの第36号」発行    |
| 3月20日            | 卒業祝賀会               |
| 4月上旬             | 新入生学外オリエンテーション      |
| 5月上旬             | 新入生歓迎会              |
| 5月中旬             | 学内スポーツ大会団結式         |
| 5月下旬             | 学内スポーツ大会            |
| 5月下旬             | 平成12年度畜友会総会         |

## 平成10年度畜友会役員

平成10年6月1日～平成11年5月31日

| 役 職   | 氏 名     | 研 究 室 |
|-------|---------|-------|
| 会 長   | 天 野 卓   | 育 種   |
| 副 会 長 | 栗 原 良 雄 | 飼 養   |
|       | 門 司 恭 典 | 繁 殖   |

執行委員

| 役 職     | 氏 名       | 学 年 | 研 究 室 |
|---------|-----------|-----|-------|
| 委 員 長   | 千 葉 耕 太 郎 | 3   | 繁 殖   |
| 副 委 員 長 | 吉 田 秀 一   | 3   | 飼 養   |
|         | 佐 々 木 大   | 2   |       |
| 書 記     | 小 森 美 和   | 3   | 生 理   |
|         | 高 橋 伸 一   | 2   |       |
| 会 計     | 三 好 順 子   | 3   | 繁 殖   |
|         | 勝 又 瑞 穂   | 2   |       |
| 渉 外     | 村 上 真 紀 子 | 3   | 繁 殖   |
|         | 平 野 良 和   | 2   |       |
| 企 画     | 松 野 里 香   | 3   | 繁 殖   |
|         | 得 能 樹 之   | 2   |       |
| 庶 務     | 中 村 和 正   | 3   | 繁 殖   |
|         | 原 琢 磨     | 2   |       |
| 編 集     | 浜 田 和 仁   | 3   | 繁 殖   |
|         | 山 口 こ ず え | 2   |       |
| 監 事     | 古 川 徳     | 先生  | 利 用   |
|         | 松 岡 昭 善   | 先生  | 利 用   |
|         | 田 畑 将 人   | 3   | 繁 殖   |
|         | 池 田 貴 司   | 2   |       |



# 東京農業大学農学部畜産学科 “畜友会”会則

## 第一章 総則

- 第一条 本会は東京農業大学農学部畜産学科畜友会と称する。
- 第二条 本会は事務局を東京農業大学農学部畜産学科内に置く。
- 第三条 本会は会員相互の親睦を図り、併せて畜産学科の発展に寄与することを目的とする。

## 第二章 業務

- 第四条 本会は第三条の目的達成のために次の事業を行う。
- (1) 会員相互の親睦
- (2) 講習会、研修会及び研究会発表の開催
- (3) 機関紙「ふじみの」の発行
- (4) 大学行事（収穫祭等）への参加
- (5) その他第三条に付帯する業務

## 第三章 会員及び役員

- 第五条 本会の会員は次の通りとする。

## 第六条

- 本会は次の役員を置く。
- |          |    |
|----------|----|
| (1) 会長   | 1名 |
| (2) 副会長  | 2名 |
| (3) 執行委員 |    |
| 委員長      | 1名 |
| 副委員長     | 2名 |
| 書記       | 2名 |
| 書記       | 2名 |
| 渉外       | 2名 |
| 企画       | 2名 |
| 庶務       | 2名 |
| 編集       | 2名 |
| 監事       | 4名 |
- (1) 正会員 畜産学科の学生
- (2) 特別会員 畜産学科教職員並びに大学院生
- (3) 名誉会員 役員会の推薦を受け、総会の承認を得た者。

## 第七条

- (1) 会長は会を代表し、会務を総理する。副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代理とする。また1名は総務を他の1名は会計を分担する。
- (2) 委員長は会長の指示を受け、執行委員会を統括する。副委員長は委員長を補佐し、委員長不在の

時はその代理をする。各委員長はそれぞれの会務を分担執行する。

第八条 (1) 本会には連絡委員を置く。

- (2) 連絡委員は1、2年次からそれぞれ4名、各研究室から1名選出する。連絡委員は各学年および各研究室の意見を掌握し、連絡委員会での意見を反映するとともに執行委員会での決定事項を会員に伝達する。

第九条 役員および連絡委員の選出および任期

- (1) 会長は畜産学科長がこの任にあたる。副会長および監事は、会長が畜産学科教職員の中から推薦し、総会において決定する。
- (2) 新執行委員会は、現執行委員会の推薦に基づき総会において決定する。但し、委員長は3年次生、各執行委員の2名の内1名は3年次生、他の1名を2年次生より選出するものとする。
- 尚、監事4名の内の2名は畜産学科教職員がその任にあたる。また、監事は他の役員を兼任することはできず、その任期は原則として1年とし、再任を妨げない。
- (3) 執行委員に欠員を生じた場合は、執行委員会に計り補充することができる。
- (4) 連絡委員は、各学科（1、2年次）および各研究室（3、4年次）で協議のうえ選出

する。また、任期は原則として1年とし、再任を妨げない。

## 第四章 総会

第十条 (1) 総会は定期総会と臨時総会とする。

- (2) 総会は生会員および特別会員をもって構成され、本会の最高意思決定機関とする。
- (3) 定期総会は原則として年一回、六月に会長が招集し、開催する。
- (4) 臨時総会は会長が必要と認めた場合ならびに生会員および特別会員総数の四分の一以上の同意を得て開催目的および招集理由を記載し、会長に提出する時招集開催することができる。

第十一条 総会開催は七日以前に公示しなければならない。

第十二条 (1) 総会は正会員および特別会員の4分の一以上の出席により成立する。

- (2) 委任状は所定の用紙に署名捺印のうえ議長に一任する。
- (3) 委任状の検査は執行委員が行う。

第十三条 定期総会は次の事項を決議する。

- ① 前年度の事業報告および収支決算報告
- ② 次年度の役員
- ③ 次年度の事業計画および収支予算



④会則の改正

⑤その他

第十四条 総会における議長は総会においてその都度互選する。尚、必要に応じて議長は副議長を指名することができる。

第十五条 議長は書記2名と議事録署名人2名を選出する。尚、議事録署名人の内1名は畜産学科教職員とする。

第十六条 総会の議決は出席者の過半数によって議決され、可否同数の場合は議長の決するところによる。

第十七条 総会出席者により執行委員の不信任を可決することができる。但し、この場合の出席者には委任状は含まない。

第五章 執行委員会および連絡委員会

第十八条(1) 第六条(3)の執行委員は本会の最高執行機関たる執行委員会を構成する。

(2) 会長および副会長は必要に応じて執行委員会に出席することが出来る。

第十九条 執行委員会は原則として月一回委員長が召集する。執行委員会は執行委員の3分の2以上により成立する。執行委員会の議長は委員長が務め、出席者の過半数により可決し、可否同数の場合は議長の決するところ

第二十條 執行委員会は総会の議決に基づき、本会の目的遂行に関する一切の会務を執行処理する。

第二十一條 執行委員会で議決された事項について、委員長は会長および副会長に文書で必ず報告する。

第二十二條 連絡委員会は委員長が総会前に必ず招集開催する。また、委員長が必要を認められた場合に開催することができる。

(1) 連絡委員会には執行委員および連絡委員が出席する。議長は委員長が務める。

(2) 連絡委員会は次の事項を処理する。

① 執行委員会で決定した事項の伝達。

② 一、二年次および各研究室からの意見の聴集および意見交換。

(3) 連絡委員会には必要に応じて会長、副会長も出席する事ができる。

第二十三條 本会の事業年度および会計年度は六月一日に始まり、翌年の五月末日までとする。

第六章 会計

第二十四條 本会の運営は会費および寄付金ならびにその他の収入を以てこれにあてる。但し、第四条の目的を達成のため臨時徴収

する場合もある。

第二十五条(1) 会費は年間二、五〇〇円とし、入学時に一括して一〇、〇〇〇円を納入する。編入・転学科学学生は学年に応じた金額を一括納入する。但し、一度納入した会費は返金しない。しかし、入学取消しの場合はその限りではない。

(2) 会費は会長および委員長連名で毎年3月に入学対象者に対して請求するものとする。

第二十六条 本会の会計は、所定の形式に従って処理し、決算はすべて監事の監査を経なければならぬ。

第七章 機関紙「ふじみの」編集発行

第二十七条(1) 第4条(3)の目的達成の為に編集委員会を設ける。

(2) 編集委員会の委員は執行委員および正委員の中から若十名選出する。

(3) 編集委員会の責任者は編集委員の内1名が担当する。

(4) 編集委員会は機関紙「ふじみの」の編集発行を責任をもって執行する。

第八章 大学行事への参加

第二十八条(1) 第4条(5)の目的達成の為に必要に応じて委

員会を設ける。

(2) 設けた委員会は本会の目的達成の為に執行委員会の意思を受け運営する。

尚、内規は別に定める。

(3) 委員会の責任者は執行委員の内1名が必ず当たる。構成員については、正会員の中から必要に応じた人数を選出する。

第九章 監査

第二十九條 監事は本会が目的達成の為、円滑に業務を執行しているか否かを監査する。

第三十條 監事は前条目的の為業務監査および会計監査を行い、その結果を総会において報告する。尚、必要と認められた場合は随時監査することができる。

第十章 付則

第三十一條 本規定の最終解釈は役員会で行う。

第三十二條 本会則は前規約を改正し、平成一〇年二月二〇日よりこれを施行する。



各部門委員長より

何かでっかいことをやってやろう

統一本部委員長 千葉 耕太郎

3年前、入学当時の私は希望に満ちていた。そして、それを満たしてくれたのが収穫祭だった。詰まりに詰まった三年間の想い出、今年第一〇七回を締め括るファイヤーストームで、燃え盛る炎を囲み「青山ほとり」をいつまでも踊った。

支えてくれた頼もしい同輩、本当にありがとう。

来年もまた大変な年だけれども、後輩達には期待しています。その時は、今年大変お世話下さった先輩方、ご支援下さった先生方、今後ともより一層のご指導ご鞭撻この場を借りて申し上げます。

収穫祭を体験した学生は皆、心動かされ、思い出しては、「よかったね」と口にする。

する緊張と不安、終わった後の達成感、嬉しさに溢れています。私達のステージ企画は農大の色を出すために、毎年、芸能人を呼ばずに行っています。それに不満がある人もいます。その農大の色を求めて来て下さる地域の方や卒業生の方がいらっしやうと思ひます。そんな人達が「いつ来ても収穫祭は変わらない、懐しい」と、思ってもらえるようなものを私はずっと続けていくて欲しいと思ひます。もちろん前回よりもよいものを作るという前程で、でも気持ちは何代も前の先輩方と同じ気持ちを持っていて欲しいと思ひます。私達が受け継いだ思ひや、味わった感動などすべてをつないでいってほしいと思ひます。昨年から学部、学科編成により、農、畜産学科は厚木キャンパスへと離れてしまいました。今年の第108回収穫祭が、本当に全学部、学科で行える最後かもしれない。どうなってしまうのかと心配していた107回は無事に終了することができ、私達の思ひを後輩に引き継ぐことができたと思ひます。きっと今年もこれからもずっと、私達が卒業してからも、自分が体験した収穫祭を見ることができると思ひます。できれば、参加したことのある人はこれからも、ない人は一度くらいは収穫祭を見て欲しいです。私は農大で最も誇れるものは収穫祭だと思ひます。

前夜祭・特別企画を終えて

特別企画委員長  
畜産学科三年 小森 美和

私の今まで3年間の学生生活のほとんどは、この肩書と一緒にした。1年の五月頃から、13学科の代表が集まる会議に出席するようになり、そのまま105回、106回、107回、と3回の収穫祭にこの役職で参加してきました。収穫祭は、10月31日の前夜祭と11月1、2、3日の本祭とで構成されています。私の役職は4日間のステージ企画、運営です。文展 模擬店などで、収穫祭自体に参加したことのある人は、たくさんいると思ひますが、ステージ企画に、または観客としてでも参加したことのある人はかなり少ないと思ひます。私達のステージ企画は4月末から毎週集まり、10月後半はほとんど毎日深夜まで、話し合い、作業を行い、作り上げていきます。どの学科の代表も、私自身も寝る間を惜しんで、学科、研究室、会議室を飛び回って仕事をしています。誰でも一度は「なんでこんなツライ思ひをしてまでやるんだらう」と思う程、最後の追い込みの10月はハードです。でも、そうしてロボロボの状態を迎える開会式に始まり、様々な企画をこなしていく作業は、自分達がそれまで練り上げてきた物をたった一日の数10分、失敗なしの1テイクで披露





## 宣伝隊を初めて経験して

宣伝隊長  
畜産学科三年 村上 真紀子

第107回収穫祭は、私にとって三度目の収穫祭でしたが、宣伝隊という初めての仕事をしました。宣伝隊の主な活動には、都内宣伝パレード、パレードでの野菜配布、みこし作りなどがあります。畜産ではみこし作りをどの学科よりも早く8月の終わりから作り始めました。厚木の一年生もたくさん来てくれました。私は他の仕事もあり、みこし作りに参加できない事もあったけれど、みんなの支えがあって楽しく活動することが出来ました。みんなありがとう。



## 体育祭を終えて

体育祭委員長  
浜田 和仁

今年度おこなわれた、第一〇七回体育祭におきまして応援部門第二位、競技部門第三位、櫓装飾部門第三位、総合部門第三位と上々な成績を残せました。今年度は、一年生が厚木から来なければならぬという大変な状況ではありましたが、一人一人が目標を持ちやっていたので、遠距離という事にも負けず毎日の授業の後でも厳しい練習、辛い仕事にも耐えてこれだけ良い成績が残せたのではないかと思います。来年度は、もっと大変な状況になるかもしれないけれど、楽しい体育祭、もっと良い成績を目指し、自分が納得できるものが出来るように頑張ってください。



## 北門装飾やりました

北門装飾委員長  
畜産学科三年 三好 順子

今年の収穫祭は本当に楽しめました。一年生が厚木校舎に移ってしまい、例年以上の人手不足かと心配したけど、皆が本当に力強い支えをしてくれたお陰で予想以上に良い仕事が出来ました。毎日毎日遅くまで、睡魔や空腹、心身的疲労にも誰一人不服を言う子も出ずに、大変良く頑張りました。台風に壊されました。雨で折角の翼が桃色にもなりました。こんな苦労話も今では楽しき思い出です。頑張ってくれた皆、ありがとう。そしてお疲れ様。来年は後輩達に大いに期待をしています。私を越えて御覧なさい。



## 家畜苑を終えて

畜産苑委員長  
吉田 秀一

今年の家畜苑は、一年生が厚木で人数的に大変な年でしたが皆良く頑張って完成させることができました。今年度はラマ・チンチラなどめずらしい動物も連れて来て今までとは違った家畜苑を開くことが出来て大変満足しています。これも自分と一緒に頑張ってくれた同輩、後輩やアドバイスして下さい。先輩方のおかげだと深く感謝しています。最後になりましたが、お忙しい中顧問を引き受けて下さった近江弘明先生、栗原良雄農場長をはじめ富士畜産農場の方々、各研究室の先生方、室員の方々本当にありがとうございました。来年もご迷惑をお掛けするとは思いますが、その時はどうぞ宜しくお願い致します。





編集後記

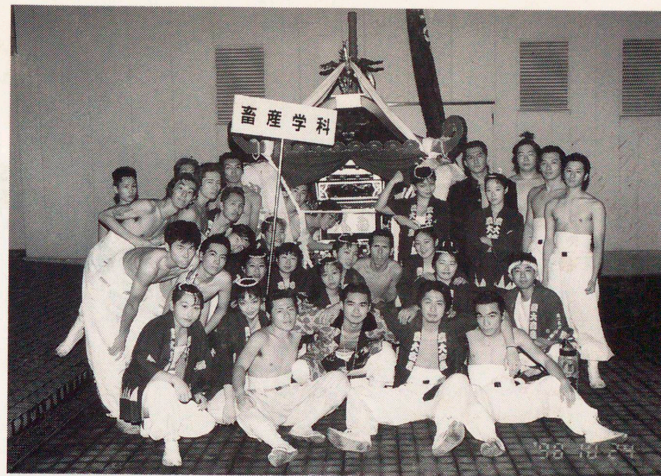
「ふじみの」も今年で第三十五号を発行する事ができました。  
平成十年度より厚木キャンパスに学科移転が行れ、世田谷キャンパスと厚木キャンパスとの連携は大変ではありましたが、お忙しい中、先生方や、先輩方そして同輩や後輩などの協力のもと、今回は今までは少し違い、育友会についての活動や収穫祭の活動について書いてみました。学科移転で厚木キャンパスと世田谷キャンパスの間で先輩と後輩との間には今までにない距離感がありました。「ふじみの」第二十五号によってその距離が縮まればと考えております。  
最後になりましたが、この一冊を発行するに当たり原稿を書いて頂いた先生方、ならびに会員の方々に深く御礼を申し上げます。

編集委員代表 吉田 秀一

|              |                                   |
|--------------|-----------------------------------|
| 平成10年4月 日 発行 | 東京世田谷区桜丘1-1-1                     |
| “ふじみの” 第35号  | 発行者 東京農業大学畜友会<br>電話 (3420)2131(呼) |
| 編集責任者 吉田 秀一  | 東京都新宿区改代町16                       |
| 編集長 山口こずえ    | 印刷所 (株) マイクロ印刷                    |
| 発行者 畜友会      | 電話 (5261)1001                     |



平成10年度  
みこしパレード



平成10年度  
体育祭



このメンバーで頑張ります!!

